江戸時代の山陰地方を結んだ山陰道は、現在の益田市域を北東から南西へと通っていました。

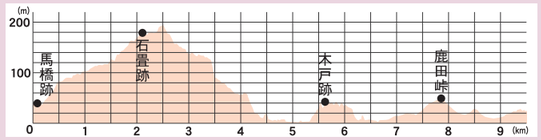
全長約25kmの益田市内の旧山陰道は、現在もその面影を残す個所が多く、特に残りの良い6区間約7.0kmが「山陰道―鎌手峠越」として、令和元年に文化庁の「歴史の道百選」に選定されています。それ以外の区間にも見どころはたくさんあります。

このマップを片手に、益田市内の旧山陰道を歩いて、歴史を体感しましょう。

一 鎌手～安田（津田）地区

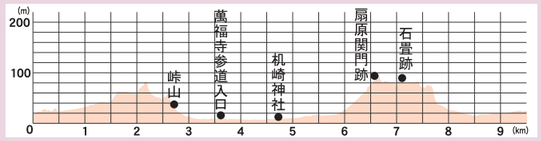
この地区では、鎌手峠区間が特に残りがよく、地元の団体によるウォーキングイベントも毎年開催されています。鎌手峠は難所と言われますが、峠からの眺めはすばらしいものがあります。ただし、商店やトイレが近くにない区間が長いので、事前の準備をお願いします。

また、木戸跡から六斎塔（草刈りされていない時期は通行困難）や、鹿田峠のあたりも趣をよく残しています。また、津田駅近辺は港町の風情をよく残していますので、寄り道して楽しむこともできます。



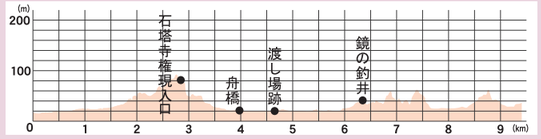
二 安田（遠田）地区～益田～西益田（梅賀山）地区

この地区では、双葉から峠山、扇原関門跡、そして左ヶ山から俣賀にかけての区間がよく残っています。そして、幕末に幕府軍と長州軍が戦った舞台でもあり、関連する史跡が点在しています。益田地区では中世の神社・仏閣が残り、寄り道して散策することができます。多田町には旅の疲れを癒やすことの出来る温泉も。多田温泉から南側は、しばらくお店やトイレがありませんので、事前の準備をお願いします。



三 西益田（横田・神田）地区

この地区では、横田の町並みがかつての宿場町の面影をよく残しています。江戸時代の最初と最後にかけられたという伝承のある舟橋や、神田地区の水路も興味深いところです。



【凡例】

旧山陰道　通行困難な箇所
現在の迂回路やオススメの寄り道

17 見どころ　神社　食事処　公民館
お手洗い　寺院　スーパー　バス停
駐車場　駅　コンビニ　注意

【ガイドやモデルコースのお問い合わせ】
一般社団法人 益田市観光協会
〒698-0024 島根県益田市駅前町17番2号
TEL：0856-22-7120　E-mail：info2@masudashi.com

益田市内旧山陰道 まちあるきマップ
令和3年3月22日発行
【編集】益田市旧山陰道プロジェクト
【デザイン】株式会社フタバ　【印刷】のさか印刷
【発行】益田の歴史文化を活かした観光拠点づくり実行委員会

令和元年度「歴史の道百選」選定

益田市内旧山陰道 まちあるきマップ

左ヶ山の石畳跡

歩いて歴史を体感しよう

島根県益田市

文化庁 令和2年度文化資源活用事業費補助金（観光拠点整備事業）

一 鎌手～安田《津田》地区

1 馬橋跡
2 札場・名号石
3 土田分教場跡
4 六十六部の墓
5 旅籠屋「新屋出店」跡、旅籠屋「仲出店」跡
6 石畳跡
7 旅籠「加島屋敷」跡（後に鎌手役場）
8 鎌手峠、駕籠立の松、駕籠屋「鎌手屋」跡
9 階段状の石畳跡
10 芋塚・首振り地蔵
11 旅籠屋「沖見屋」跡
12 浄円寺跡
13 木部分教場跡
14 一里塚跡・札場
15 渡し場跡
16 地蔵堂
17 木戸跡
18 六斎塔
19 津田の町並み
20 鹿田峠
21 三界万霊塔
22 石畳跡
23 東方寺裏の井戸、お茶屋床跡
24 万霊塔・経塚

1 馬橋跡　益田市と浜田市の境を流れる土田川には、馬橋という橋がかかっていました。人馬はこの河原で休憩し、難所の鎌手峠に向かう準備をしたのでしょう。古文書に江戸時代の後半にかかっていた橋の図が残っています。

4 六十六部の墓　江戸時代には、日本全国六十六個所の霊場をまわり、書写した法華経を奉納する巡礼が流行しました。この巡礼をする人を六十六部や六部、廻国聖などと呼びました。中には途中で行き倒れる人もあり、こうした人を地元の人が弔った墓が各地にあります。この墓もその一つです。

8 鎌手峠　鎌手峠の周辺には旅籠（⑤、⑦、⑪）や石畳（⑥、⑨）の跡、殿様が駕籠を立てたという伝承や駕籠屋の跡などが複数残り、難所であったことを物語っています。それだけに峠からの眺望は抜群です。

17 木戸跡　ここには、かつて木戸があり、木戸番がいて、通行人を監視していたそうです。今でこそ、海沿いに道が通っていますが、江戸時代にはこの狭い坂道を通らざるをえず、監視にはうってつけの場所だったのでしょう。

22 石畳跡　このあたりはかつて湿地だったようです。昭和の初め頃まで、遠田川を横切ってまっすぐな石畳の道が南に向けて続いていたそうです。

18 六斎塔　この塔には次のような伝承があります。昔、大名行列の前を横切った女性が捕まりました。津田村の人々が助命嘆願すれば助かったところ、藩のおとがめを恐れた人々は見殺しにしてしまいました。女性は処刑直前に三回村を焼き払うと言い、津田のまちは現在まで二度の大火にあったといいます。

20 鹿田峠

地理院地図を加工して作成